

JICE

ISSN 1347-4502

2019 第34号

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF COUNTRY-LOGY AND ENGINEERING

REPORT



REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF COUNTRY-LOGY AND ENGINEERING



1928年当時の東京駅



KINTE屋上庭園より望む丸の内駅前広場



和倉門より望む東京駅

Pick-up column

丸の内

東京都心に位置する大手町、丸の内、有楽町はわが国を代表するビジネスセンターのひとつである。徳川家康の江戸入府前は「日比谷入江」と呼ぶ東京湾の入り江であったが、幕府成立後は天下普請による埋め立てが行われ、大名屋敷が立ち並びまちとなった。明治維新後は、屋敷跡の大きな区画であることを利用して官庁街やビジネス街となった。

近年、高度経済成長期に建設された多くのビルが建て替え期となり、都市再生緊急整備地域などの特例制度を活用し、超高層ビルへと建て替える再開発プロジェクトが続いている。なかでも特徴的なのは、東京駅の復元工事にあたり特例容積率適用地区に指定し、東京駅の指定容積率の一部を周辺街区に移転(空中権を売却)することにより工事費用を調達した。また、大手町合同庁舎の跡地再開発を足がかりに周辺の老朽化したビルを玉突き式に新しい再開発ビルへ移転させる連鎖型都市再生を行っていることである。

こうしたプロジェクトの工夫により、時代の進歩に対応した設備を備えたビル群に更新されただけでなく、夜間や休日には人影がまばらな無機質なビジネス街から一新し、アメニティに満ちた空間へと変貌を遂げ、世界都市・東京の顔として相応しい街並みの景観をつくりだしている。

(撮影場所：東京都千代田区)

